2023.Summer
vol.36

ー喜びと共にー　霧島記念病院広報誌

【はっぴい　はっぴい】

Happy Happy

特集

運転支援について

【トピックス】

「地域連携室インタビュー」

「骨粗鬆症検査」

ご自由にお持ち帰りください

医療法人　健康会
霧島記念病院
Kirishima Memorial Hospital

pickup

自動車運転リハビリの紹介

当院では平成30年に自動車運転リハビリチームを立ち上げ、さまざまな病気や生活上の障害がもとで自動車運転継続に何かしらの不安をお持ちの方やそのご家族の方に向けて、運転相談を受けています。

また、必要に応じて各種検査や自動車運転リハビリテーションを行い、『ご本人の運転に対する「気づき」を促す』ということを目標に、より良い安全な生活を送っていただけますよう支援しています。

当院の運転リハビリの大きな特徴として、3画面の運転シミュレーターを使用して、運転操作の訓練をしながら高次脳機能訓練が行えます。また、近隣の自動車学校と連携しており、希望に応じてリハビリ職員同乗しての実車評価も実施しております。その他にも、脳トレや関節可動域訓練・筋力訓練を行い、より安全運転に繋がるようなリハビリプログラムを提供させていただいております。

気になることがございましたら、まずはお電話でお気軽にご相談ください。

症例報告：Aパターン

【症例紹介】

症例：70代女性

症状：右半身に軽度の運動麻痺があり、歩行は不安定。また注意機能低下などの高次脳機能障害あり。ご家族の方は免許返納を勧めていましたがご本人は運転の希望が強く、当院に相談に来られました。

当院にて約1か月間の運転リハビリを行い、運転の姿勢が安定し、注意機能にも改善がみられました。さらに、ご本人とご家族の方に安全運転を継続するために気を付ける点を説明しました。ご本人からは「自分の気づきにくい所が分かった」「天気のいい日に近場だけの運転にする」と意識の変化がみられ、ご家族の方も「運転のどういうところに難しさがあるのか分かったので、声をかけながらもう少し見守っていきたいです」と安心されたようでした。

症例報告：Bパターン

【症例紹介】

症例：70代女性

症状：軽度右運動麻痺　歩行不安定　注意機能低下など

運転相談内容：ご本人「運転は問題ない。助けはいらない」ご家族の方「免許返納して欲しい」

運転リハ目的：運転行動・意識の獲得

毎週一回、80分程度の運転リハを実施し、1か月後にリハビリ結果をご本人・ご家族の方へ説明。

結果をもとに、今後の免許返納か否かの方向性を決める目安にする。

【運転外来　実施内容】

・両下肢・体幹の関節可動域訓練・筋力向上訓練
・高次脳機能訓練（選択性注意、メモリ）
・運転シミュレーター

【変化点】

・ご本人「気をつけるところがわかった。自分の気づきにくい部分がわかった」「晴れの日だけ、近場の買い物だけ運転するようにしてみるよ」
・ご家族の方「よくわからない不安ばかりを言っていました。運転のどういったところに難しさがあるかわかりました。声を掛けながらもう少し運転を見守っていきたいと思います。」

【最終面談での助言内容】

・異変に気づいてからブレーキ・ハンドル操作を行うのに少し時間がかかっています。車間距離は25m以上を心掛けましょう。
・路面が濡れると止まる距離が増します。雨の日は運転は控えてください。

			乾いた道路		ぬれた道路		一般停止距離		安全間隔	一般安全
	反応動作時間	空走距離	制動距離	停止距離	制動距離	停止距離			3秒間隔	3秒間隔
10km/h	1.3083	3.63	0.56	4.20	0.79	4.42	2.64	4	10.9	8.34m
20km/h	1.3083	7.27	2.25	9.52	3.15	10.42	6.42	8	21.8	16.68m
30km/h	1.3083	10.90	5.06	15.96	7.09	17.99	11.31	14	32.7	24.99m
40km/h	1.3083	14.54	9.00	23.54	12.60	27.13	17.33	22	43.6	33.33m
50km/h	1.3083	18.17	14.06	32.23	19.69	37.86	24.48	32	54.5	41.67m
60km/h	1.3083	21.80	20.25	42.05	28.35	50.15	32.75	44	65.4	50.01m
70km/h	1.3083	25.44	27.56	53.00	38.58	64.02	42.14	58	76.3	58.32m
80km/h	1.3083	29.07	36.00	65.07	50.39	79.47	52.66	76	87.2	66.66m
90km/h	1.3083	32.71	45.56	78.26	63.78	96.49	77.07	93	98.1	75m
100km/h	1.3083	36.34	56.24	92.58	78.74	115.08	83.34	112	109.0	83.34m

症例報告：Cパターン

【症例紹介】

他院にて運転は無理と判断された経歴のあるような患者さんにも対応させていただいております。

下の図は運転シミュレーターを使用して、視野・注意機能を視覚的に表示したものになります。介入時は左側の注意障害が著明でありましたが、当院にて運転リハビリを約1か月間継続した結果、症状に大きな改善がみられました。（視野・注意機能の数値が上がり改善）

漠然とした「危ない」を図示することで、ご本人自身の気づきを促し、運転行動の変容に繋がったと考えられます。

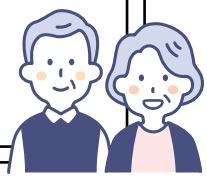
リハビリ前

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A	0% 0.00	50% 1.025	50% 1.025				100% 0.655	100% 0.424	100% 0.521
B	0% 0.00	0% 0.00	50% 1.025	75% 0.919		100% 0.514	100% 0.498	100% 0.427	100% 0.557
C	0% 0.00	0% 0.00	25% 1.059				100% 0.619	100% 0.490	100% 0.524

リハビリ後

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
A	50% 0.589	100% 0.552	100% 0.705				100% 0.383	100% 0.347	100% 0.495
B	50% 0.954	25% 0.321	100% 0.748	10% 0.502		100% 0.500	100% 0.393	100% 0.382	100% 0.428
C	0% 0.00	75% 0.677	75% 1.080				100% 0.405	100% 0.427	100% 0.578

医療ソーシャルワーカーって何する人？



「何か困りごとはありませんか。」

私が患者さんや患者さんのご家族に良く使う言葉です。

「悩みごとがないのが悩みです！」と笑いながら答える方もいらっしゃいますが、特に入院生活は患者さんだけではなく、そのご家族にとっても非日常的な生活に変わるため様々なストレスや困りごとが発生します。

その困りごとの中には誰でも解決できることと、専門家が間に入ることによりスムーズな解決ができることがあります。例えば、入院費の支払いについて困りごとの相談を受けたとします。

そもそも医療費自体が患者さんにとっては分かりにくく不透明な計算方法ですよね。スーパーみたいに値段の張り紙もなく、病院から請求されるがまま支払う方がほとんどだと思います。そうなると誰でも「早く退院をすれば入院費は安くなる」と考えるでしょうが、制度をうまく利用すれば多少入院期間が長くなっても「安くなる」方もいらっしゃいますし「負担がゼロになる」方もいらっしゃいます。

支払いに不安があるから治療を途中で止めて退院した。退院後にまた具合が悪くなって再入院となってしまいかえって支払いが高くついた。よくある話です。そうならないためにも制度の説明や手続きの仕方などはぜひ病院にいる医療ソーシャルワーカーなどの専門家を頼ってください。一緒に考え、すぐに解決できない問題であれば、その時は適切な相談先や専門家をご紹介いたします。

前置きが長くなりましたが当院地域連携室の紹介と業務内容について説明をさせていただきます。

メンバーは社会福祉士(医療ソーシャルワーカー）３名　看護師1名の計4名体制となっております。

細かい業務内容について説明すればキリがないのですが簡単に言うと「連携」という名のとおり「自院と他院・他施設をつなぐ部署」です。

入退院の相談窓口として多くの医療機関や介護施設などと連携を行います。おかげさまで昨年は、130件の入院相談をいただきました。

電話だけではなく直接顔の見える連携も心掛けており訪問活動にも力を入れています。

また当院は入所できる関連施設を持ちませんので退院調整する際には患者さんの状態に応じた介護施設等へご紹介する機会も多くなります。その他にも医療保険や介護保険、障害者福祉、生活保護などの行政手続き説明や代行申請なども行っています。

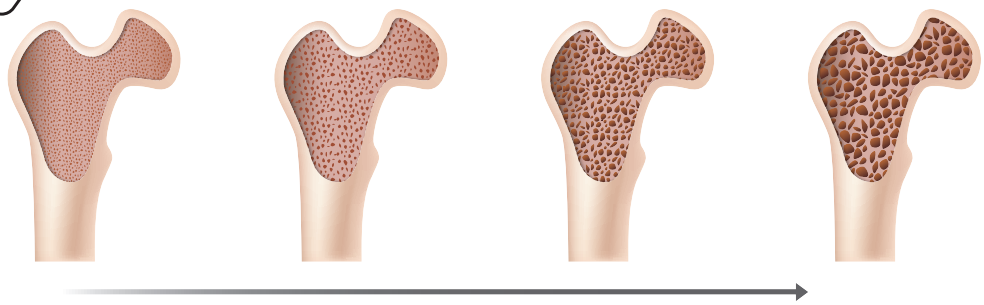
病院の奥に事務所がありますが病棟や外来にも頻繁に足を運んでいますのでお声掛けいただければどこでも駆け付けますのでご安心ください。直接身体に触れて治療していく仕事ではありませんが私たちの関わり次第で患者さんの今後の人生や生活を左右することがあります。「霧島記念病院に入院して良かった」と言ってもらえるようにスタッフ一丸となって全力でサポートしていきたいと思います。最後になりますが、「何か困りごと」がありましたら些細なことでも構いませんのでいつでもご相談ください。

骨粗鬆症検査

ご自身が骨粗鬆症であるかどうか、早めに検査を受けてみませんか？
骨粗鬆症になると僅かな衝撃で骨折をしやすくなり、寝たきりといった介護支援が必要な生活になりかねません。

骨粗鬆症の診断

骨密度検査では若年成人の骨密度と比較を行い、骨粗鬆症であるかどうかを判断します。



正常：若年成人の 80%以上　　骨量減少 :70%～ 80%　　骨粗鬆症 :70%以下

中には若年成人より骨密度が高い高齢者の方もいらっしゃいます！

当院での検査結果の統計データ

当院で 2 回以上骨密度検査を受けた方 27 名を対象に分析を行いました。

○約半数の方が骨粗鬆症であった　○約半数が半年で骨密度が下がった
○1/4 の方が骨量減少レベル　○正常範囲にある方は 18%しかいない

下記の表は 1 回目の検査から半年後に再検査しどのくらい変化があったのかを示しています。

	腰椎	大腿骨
全体 (27 名)	1.6%上昇	0.3%上昇

内服や日頃の生活習慣 (運動や食事) の見直しで **10%**近く上昇している方、反対に **5%**近く低下している方もおられました。
それでも当院で治療している方は上の表で示すように**全体的に骨密度が上昇**しているのがわかります。

当院では検査結果を紙でお渡ししています。
治療薬は錠剤・注射剤等、ご本人と相談の上対応いたします。
検査の結果、既往歴や現病歴を医師と相談し適切な治療・経過観察を行っております。

ご不明な点が御座いましたらお問い合わせください。

行事食ご紹介

「七夕メニュー」

7月7日は、七夕の日。

そんな七夕の日に、当院では七夕メニューと題しまして、行事食を実施いたしました。

みなさん、七夕の日には、「そうめん」を食べる習慣があることを知っていますか？七夕の行事食がそうめんである由来を調べてみました。一説によりますと、中国の「索餅（さくべい）」という料理が由来しています。索餅とは、小麦粉と米粉を練り、縄のように細長くねじって作った奈良時代頃に唐から製法が伝わった唐菓子（とうがし）です。この索餅がそうめんのルーツと言われています。

中国の言い伝えでは、7月7日帝の子どもの霊鬼が疫病を流行らせたため、帝の好物であった索餅をお供えしたところ、疫病の流行が治まったそうです。それ以降、無病息災を祈願して7月7日に索餅を食べる習慣ができたそうですが、時代を経てそうめんに変わり、現在の七夕の行事食として食べられるようになりました。

メニュー

ゆかりおにぎり
冷やし豚しゃぶそうめん
茄子のごまみそ炒め
七夕ゼリー

広報委員が選ぶ

ベストショット

Best Shot

撮影者：内園ゆき子　　撮影場所：自宅

解説：いつもは 1 つの枝に 3～5 個ぐらいしか咲かない百合の花が今年はなんと 1 つの枝に 29 個も花咲かせ花束ができました。いい事ありそうです。私もこのぐらい花咲かせてみたいです。

脳神経外科・循環器内科・整形外科
救急科・内科・外科・リハビリテーション科
頭痛外来・高血圧専門外来

医療法人 健康会
霧島記念病院
Kirishima Memorial Hospital

〒899-4322　鹿児島県霧島市国分福島1丁目5－19
TEL：0995-47-3100　FAX：0995-48-7312
HP http://kirishima-memorial.jp/
mail:info@kirishima-memorial.jp

Access
●九州自動車道溝辺空港インターより車で２０分
●東九州自動車道隼人東インターより車で５分
●ＪＲ国分駅より車で１０分
●ＪＲ隼人駅より車で１０分